



発行日：2011 年 1 月 15 日

発行者：NPO 法人箕面こどもの森学園
562-0032 大阪府箕面市小野原西6-15-31
tel&fax 072-735-7676

e-mail kodomomori@nifty.com

URL http://kodomono-mori.com/

あけましておめでとうございます

みなさまの暖かいご支援のお陰で、この1年をつつがなく過ごすことができました。

新校舎に移ってから2年経ち、子どももスタッフも落ち着いて、いろいろなことにチャレンジした1年でした。子どもたちの人数も増えて、にぎやかになってきました。

本学園は、これまで「多様な教育を推進するためのネットワーク（おたネット）」と協力しながら、NPO法人立学校の設置の容易化の運動に取り組んできましたが、今年はその実現に向けて、さらに活動を



進めて行きたいと思っています。
本年も引き続きご支援をお願い申し上げます。（辻）

大盛況だったオープンスクール

11月13日にオープンスクールを開きました。今年は、19人の子どもたちとその保護者の方など40人ほどの参加がありました。子どもたちには、手芸、クッキング、木工の3つのグループに分かれて、授業を体験してもらいました。手芸は「スウェーデン刺繍」、クッキングは「きなこクッキー」、木工は「釘と毛糸の絵」の活動をしました。学園の子どもたちが、そのサポート役として各授業に入りました。初めて経験する子たちに、親切に教えることができていました。授業の後、学園の子どもたちが学校紹介をしました。自分たちが作成したスライドをパワーポイントで見せながら、全員で学校のふだんの様子を説明しました。どの子も落ち着いていて、すばらしい発表ぶりでした。

体験授業に参加した子どもたちからは、「楽しかった！」「家でもやってみる！」などの声が聞かれました。オープンスクールに参加



クッキングの授業風景

された方には学園の雰囲気や教育内容などを体感してもらうことができたと思います。オープンスクールの参加者の中から、現在2名の人が入学することになりました。これをきっかけに、子どもの主体性を育てる教育がもっと広がっていくことを願っています。（藤田）

人と動物の関係を学ぶ

2学期のテーマ学習では、「人と動物」について学びました。「絶滅危惧種」「捨て犬、捨て猫」「家のペット」「口蹄疫」の4つの小テーマに分かれて、グループごとに調べました。

また、動物の保護施設「ハッピーハウス」に見学に行ったり、野生動物の保護活動をされている五味和也さんのお話や、保健所で殺処分を待つ動物たちのポートレートをつづった写真集を出されている児玉小枝さんのお話を聞きました。人と動物の関係が人間中心となっている現状を知り、その問題点を見つけ、各地で活動している方たちとの出会いを通して、人と動物との共存や自分たちにできることについて考えることができました。

子どもたちの感想です。「犬とねこ、かわいそうやなーと思った。人も犬もねこもみんな命やのになーとおもった。（小3男子）」、「私たちのよく知っている動物も数がへっていて、そのほとんどの動物が人に殺されている事を知ってショックをうけました。（中略）」でも、減らしてしまった動物を保護して守ることができるのも人なんだなと思いました。（小5女子）」



殺処分される犬やネコの話をする児玉さん

学校の森づくり

”困ったときに何とかできる力を！”

この学習は森（学校）の中に木（物）を増やしたり整備したりする選択プログラムです。

今までに色々な物を作ったり修理しました。今までに色々な物を作ったり修理しました。する事が決まったら道具と材料を考えながら

進めていきます。

本校では電動ドリルやミシンなども低学年から使います。低高合同なので、高学年の手助けを受けながら低学年もいろんなことに挑戦しています。高学年の子は、「とりあえずここまで出来て一安心」「あと何個作ったらええのかな〜」など、今することだけでなく全体の見通しも考えています。困ったり失敗したとき、それに替わるものを探したり、どう処置するか考える力もつけてきています。

もの作り体験を通して、生活の色々な場面で何かに困ってめげてしまっても、“気を取り直して何とか考えて動き出す人”になってほしいと願っています。失敗しながらも、大丈夫、大丈夫・・・とみんなで完成の喜びに向かって“学校の森づくり”をしています。（平嶋）

年末恒例のお楽しみ会

2学期の最後の日、お楽しみ会が開かれました。保護者の方だけでなく、会員さんや一般の方にもお声かけをして、全員で40名ほどのパーティになりました。

出し物は、選択プログラムで練習してきたリコーダーの演奏や歌の発表の他、プロジェクトの時間に作ったカードを使った「マーク当てクイズ」、オリジナルの「服装当てクイズ」、思考力を試される「超難問クイズ」、こどもの森でおなじみの大勢で楽しめる遊び「ハンバーガーどっかん」、宝探しなど盛りだくさんでした。そして、学園長扮する魔法学校のダンブルドア校長が、5年生の女の子が扮するハリーポッターとハーマイオニオニを従えて登場。魔法の呪文をかけながら、ロープマジックを華麗に披露してくれました。

最後に、子どもたちから来てくださったみなさんに手作りおやつのおもてなしがありました。用意したのは、ドロップクッキー、いろいろ、キャラメルミルクゼリーの3つで、どれも子どもたちがプロジェクトで何度か作ったことがあるもので、お客さんたちから「すごくおいしい！」と好評でした。なごやかで暖かい雰囲気の中、みんなで楽しい時間を過ごすことができました。（守安）

《自由作文紹介》

ベストアーティストのこと あん

12 月 15 日の夜、テレビで「ベストアーティスト」という歌番組を見た。その番組の司会を嵐の翔くんがやっていた（私は嵐が好きで、特に翔くんのファン）。

番組の最後に嵐が出てきた。リーダー（大野くん）が、翔くんの司会ぶりをコメントする毎年恒例のシーンがあった。「今年も櫻井翔らしさが出て、カッコよかった。」とか。昨年と同じようなことを言っていて、「毎年、同じようなもんやな〜。つまんねっ」って思った。

嵐が歌った曲は、ビリーブとハピネスとモンスターの 3 曲しかなかった。でも、今年もカッコよかったな〜（特にずっと踊ってたモンスター）。ビリーブは、と中までしか踊らなかったの、全部踊ってほしかったな〜。

ポケモンセンターのこと むぎと

11 月 26 日（金曜日）に、ポケモンセンター（ポケモンカードやグッズが売っているところ）大丸梅田店が開店した。ぼくは、「どんなのかな？」と思って見に行きたかったけど、26 日は学校があってあいてなかったの、27 日（土曜日）にポケモンセンターに行った。

27 日は、午前中友だちとあそんでいたの、午後 2 時ぐらいに梅田についた。ポケモンセンターに行ってみると、入るだけで 2 時間半まちだった。がんばってまわっていると、やっと中に入れた。でも、中はすごい人ごみで、何も買わないで帰った。

その 2 日後に学校でみんなに話してみたら、ふうとあっきー（学校の友だち）も「その日に行った！」と言っていた。同じ日に友だちも行っていて、すごくびっくりした。

ボートサーフィンの大会 たつ

12 月 19 日（日曜日）、ボートサーフィンの大会がありました。お父さんも大会に出ました。ひょうたくんも出ました（ひょうたくんは、プロサーファーです）。サインももらいました。

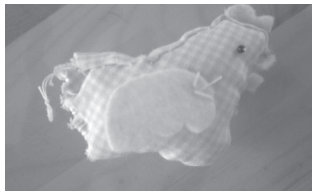
まず、ビギナーからでした（ビギナーは、大人のあまりうまくない人が出るやつ）。お父さんは、ビギナーにでました。つぎは、オープンでした（オープンは、ちょっとうまい人が出るやつ）。そのつぎが、キッズでした（キッズは、子どもだけ）。

《プロジェクト紹介》

おかめインコ あや

まえにひよこをつくったので、かわいいおかめインコをつくろうを思いました。

きいろいきれで、インコのかたちになっていくところがうれしかった。



ゴムでっぽう しゅん

わりばしでっぽうを作ったときに、「10 連発とかできかなあ」と思いついて、作った。

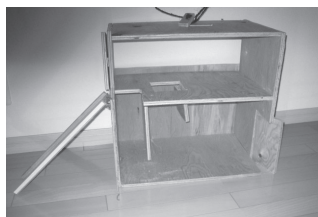
工夫したところは、銃身を長くするとゴムのいりよくが強くなること。

やってみたら、「ピュー、パシッ」といい音で命中したので、「やったー！」と思った。



くまたんのからくり屋敷 あやき

くまたんとは、ぼくのあいぼうのくまのぬいぐるみです。くまたんのからくりやしきを木工で作りました。からくりは、どんでん返しや落とし穴があります。このからくりやしきに入って、生きて帰れる人はいないかもしれません。



たつは、2 ヒート目でした。ちょっとだけのれたけど、7 人いて 7 いやったから、ボートの上でなきました。いつも大会のときはしゃべりして、れんしゅうのときにせいこうします。

大会がおわってから、トリッキー（サーフショップ）で、バーベキューをしました。大人がバーベキューをしているあいだ、たつとライ（友だち）でふるやさんにいきました。

ふるやさんからかえってきたら、ライママが 100 円くれて、「おやつかってきい」っていってくれました。

《子どもの意欲を育むために》

「子どもに意欲をもってもらいたい。」親や教育に携わる者なら誰もが思うことでしょう。その意欲とは、一体どのように育まれるのでしょうか？意欲は、動機づけと密接な関係にあります。

動機づけには 2 種類あります。「お小遣いをあげる」「ごほうびに買ってあげる」などは、「外的動機づけ」の分類に入ります。これを繰り返していると、子どもは、「お金やごほうびをもらえるからやる」というパターンに慣れてしまいます。

そうではなく、子どもが日ごろからやっていることを「すごいね」「おもしろそう！」「ぼくも、こんなの作ってみたい！」と、周りの友達や大人から認められ、受け入れられたとき、子どもは達成感を感じ、「次は、これをやってみよう！」という新しい意欲が子どもの心に生まれます。

子どもの意欲をはぐくむために、私たち大人は、まず、子どものやりたいことをやらせてみて、次にそれを認め、一つひとつの小さな成長をとともに喜ぶことが大切です。（藤田）

《選択プログラム「手芸」》

ものを造りだす創造的な学習は、完成時の達成感が自信につながり、子どもたちの発達にとって欠かせないものです。中でも手芸は、一つ一つ積み上げていく過程が目に見え、継続することの大切さがわかりやすい上、針の運びなどに自分の成長の跡を確かめられるという利点があります。

選択プログラム「手芸」は、販売品を作るという目標を設定し、上記のような意義をさらに深めることをめざしています。子どもたちは、修学旅行など校外学習の費用を作り出すために、年間を通して販売品の制作に取り組めます。自分の物ではなく売り物を作るのですから、丁寧な手仕事が求められますし、販売機会を意識し、いつまでに何を作るか、考えながら作業を進めねばなりません。そのことにより、技量が上がるのはもちろん、見通しを立てる力もついてきています。

作っているのは主にクロスステッチのコースターなど、刺繍作品です。刺繍は、間違えても簡単に手直しができ、色や柄の選択に自分の個性が活かせますから、みんな、ゆったりとした気持ちで、楽しみながら制作を続けています。（田中）



NPO 法人箕面こどもの森学園の事業活動 9 月～ 12 月

ロハス in こどもの森～秋フェスタ

10 月 30 日、季節外れの台風が心配され出店はすべて室内に変更しましたが、実際にはほとんど風雨の影響もなく、無事に開催することができました。参加者が 80 名程と少なかったのですが、その分、出店団体同士の交流も深まり、落ち着いた暖かみのある会になりました。今回は常連の、よつ葉産直センターやインターナショナル、ごきげんやなどからも事前の実行委員会に参加していただき、「ロハスな食」というテーマで、人と環境にやさしい食べものやいのちの食べ方などについてのイベントや出店を計画しました。

すっかりお馴染みになった“はるちゃん”こと加藤さんのモンゴルパン、今回初参加のポディクレイの前田さんの粘土せっけん、ユニットぐるぐるのコンパニオンプランツ、葉根ごよみさんの芋ようかんと布ナプキンなどの個性あふれるお店の出店と、食に関する絵本の読みかせとギター・三線・ジャンベによるアコースティックコンサートもありました。きんかんの会はエコバッグのワークショップと寒天・梅醤番茶などの販売をしました。会員の岸本さんには手当食ミニ講座も開催していただきました。(増田)

おるたネットフォーラム in 関西

「おるたネット」というのは、「多様な教育を推進するためのネットワーク」の通称で、神奈川に本部を持つ全国的な組織です。おるたネットは昨年 1 月に設立されたばかりの新しい団体ですが、多様な教育の必要性を広く知ってもらうための活動を積極的にやっています。夏に大阪と東京で多様な教育に関するフォーラムが行われました。大阪でのフォーラムは「教育に選択肢を持とう！」というテーマで 7 月 11 日（日）に箕面こどもの森学園で開催しました。基調講演をおるたネット代表の古山明男さんをお願いし、多様な教育の歴史とそ



おるたネット代表古山さんの講演

の重要性について話していただきました。その後でワールドカフェ形式で参加者同士が教育について熱く語り合いました。

おるたネットが主催や共催した新しい形式のイベント「教育リアル熟議」という、参加者全員で教育について熟議（熟慮と討議の合成語）が東京と北海道で開かれました。今年は関西でも開かれます。1 月 10 日（月・祝）に京田辺シュタイナー学校で、3 月 5 日（土）に箕面こどもの森学園で開かれます。後者についてはイベントのページをご覧ください。(辻)

おるたね関西交流会について

「おるたね関西」というのは、関西在住のおるたネット会員による交流プロジェクト「おるたネット関西地区交流会」の略称で、正式には去年の 10 月から始まりましたが、隔月で開くことにしています。教育のことを気楽に語れる場として、一般の人にもオープンにしていますので、会員でない方も気軽に参加できます。次回第 3 回目は、2 月 6 日（日）14:00～16:30、大阪都心のカフェで開く予定です。箕面こどもの森が話題提供することになっていますので、ぜひぜひご参加下さい。詳細はまだ未定ですが、箕面こどもの森学園のホームページ (kodomo-mori@nifty.com) やおるたね関西の掲示板 (<http://cwaweb.bai.ne.jp/~dsssm/bbs2/wforum.cgi/>) などでお知らせしますので、そちらをご覧ください。

手当て食講座～お台所は薬箱～

11 月 18 日「手当て食講座」秋冬編開催しました。手当て食とは台所にある身近な食材で体調を改善する手法です。

近頃は健康食ブームで色々な書籍が出版されていますが本を読んだだけでは手当て食を実践しづらいのではないのでしょうか。

今回も受講者の方々から一番多く感想を頂いたのは「実際の作り方や味や温度が良く分かった。」というものでした。手当て食は体調の悪い時に処方するものですので一度講習を受けていただくと自信を持って実践していただけます。家族の健康は台所から。

日頃の生活スタイルを見直すきっかけにもなる手当て食講座受講してみませんか？

次回の手当て食は春に行います。(岸本さち子)

こどもの森市民太陽光発電所の運行状況～2010 年 1 月から 12 月まで～

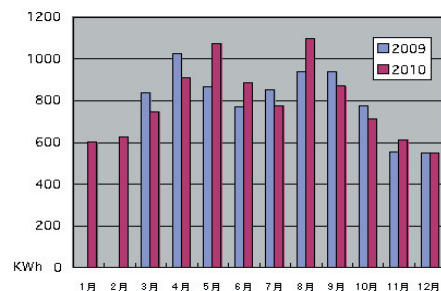
この通信の前号で、こどもの森学園校舎の屋根に設置した 8.7 KWh の太陽光発電装置の 3 月から 8 月までの半年間の運行状況を報告しました。今号では、2010 年の 1 月から 12 月までの 1 年間の運行状況をお伝えします。

下のグラフは、設置してからの 22 ヶ月間の月別の発電量を示したものです。2009 年のピークは 4 月でしたが、2010 年は 5 月と 8 月がピークとなっており、どちらも 1000 KWh を越えています。一般に春と秋は昨年の方が発電量が多く、夏は 2010 年の方が多くなっています。

2009 年の 10 ヶ月間の総発電量は 8088 KWh でしたが、2010 年 1 年間は 9441 KWh でした。想定した年間発電量 8700 KWh を 8.5%ほど上回っています。このうち電力会社に売った電力量は 7370 KWh で、その金額は約 35 万円でした。学園が自己消費した電力量はその差額の 2071 KWh ということになります。したがって、78%を電力会社に売り、22%を自己消費しています。

ふだんの生活ではなるべく電気エネルギーを使わないようにしているので、太陽光発電による経済的メリットは結構大きいといえるでしょう。(辻)

月別発電量 (2009 年 3 月～2010 年 12 月)



NPO 法人箕面こどもの森学園の活動にご支援を！

ご支援いただける方は、次のいずれかの方法でご協力願います。

- ◆正会員になる (年度会費 6,000 円)
- ◆賛助会員になる (年度会費 3,000 円)
- ◆資金・資材を寄付する
- ◆情報・労力を提供する

振込先:

<郵便振替> 加入者: NPO 法人箕面こどもの森学園

口座番号: 00980-7-232403

<銀行振込> 池田泉州銀行小野原支店

名義人: NPO 法人箕面こどもの森学園

口座番号: (普通) 72258

※会員になられる方には入会申込書と振替用紙をお送りしますので、下記にご連絡ください。

TEL&FAX 072-735-7676 kodomomori@nifty.com

雑感

”変わった”親

私たちの学園に子どもを通わせている保護者の中には、自然分娩、野外保育、無農薬・無添加の食物、環境に配慮した生活などを実践されている方がおられます。いい意味で自分の生き方にこだわっておられるので、当然のことながら子どもを行かせる学校にもこだわりがあります。「かけがえのない子ども時代をのびのびと過ごさせたい」、「いい成績をとることよりも、いろんな体験をさせたい」、「教え込む教育ではなく、子どもの自発性、主体性を大切に教育をさせたい」などの思いを共通して持っておられます。世間一般の人たちとは違った価値観を持っているので、ちょっと変わった親と見られていることでしょう。

また、学校の中での人間関係が上手くいなくなると、この学校に子どもを通わせるようになった保護者の方もおられます。そんな場合、子どもは自信を失い、自己肯定感が低くなっていますが、みんなからそ

のままの自分を認められるとだんだんに自信を取り戻して、元のように元気になります。しかし、中にはなかなかそうならない子どももいます。それだけ心の傷が深いのでしょう。

ある子の場合、友だちとのトラブルがきっかけでこの学校にも行けなくなりました。親はその子のためやれることはすべてやりましたが、それでもその子は動こうとはしませんでした。万策尽きて、無理に学校に行かなくてもいい、今はその子のやりたいようにさせるしかない親が腹をくくったとき、不思議なことに今度は子どもの方が動き始めました。子どもは親の期待に敏感で、無意識のうちに親のそれに自分を合わせようとしますが、それがその子の心の自由を奪ってしまうのでしょうか。それから解放されたとき外に向かうエネルギーが湧いてきます。親が子どもを変えようとしているうちは子は変りませんが、親が変わったときには子どもは本当に変わります。こんな”変わった”親もステキです。(辻 正矩)

各種イベントのお知らせ

1 月～3 月

ロハス in こどもの森&プレーパーク

今年の春も、ロハス・フェスタと 1 日プレーパークを行います。人と環境にやさしい暮らしや食育について実感できるイベントです。

箕面こどもの森学園の会場では、産地直送の食品販売やロハスな軽食、手づくり品の販売などがあります。にとり公園では、恒例の 1 日プレーパークを開きます。のどかな初春の一日をご家族でお楽しみください。

日 時：3 月 19 日（土）10:00～15:00
（雨天決行）

場 所：箕面こどもの森学園+にとり公園
参加費：無料

共催団体：インターナショナル、箕面こどもの森学園、ユニットぐるぐる、よつ葉産直センターほか。

箕面こどもの森学園の 無料授業体験ができます！

一斉授業とも詰込み授業とも違う、子どもの可能性を拓く新しい教育にふれる貴重な機会です。こどもの森の教育にご関心のある方は、ぜひご体験ください。

日 時：2 月 21 日（月）～25 日（金）

8:40～15:00（水曜日は 8:40～11:40）

※上記の日程からご都合のよい日を 1 日お選び下さい。

対 象：年長児～小学 5 年生

参加費：無料（2 日間以上ご希望の場合は、
2000 円 / 日の体験料が必要になります）

申込み方法：申込書を体験希望日の 1 週間前までに、郵便または FAX でお送り下さい。

問合せ・申込先：箕面こどもの森学園事務局
（TEL&FAX 072-735-7676）

こんな学校に出会いたかった！！

箕面こどもの森学園 生徒募集

子どもたちの主体的な学びを支援するオルタナティブ・スクールです。子どもの興味関心を学習の中心にすえ、子ども自身の生活から学習を組み立てるフレネ教育の考えと方法を取り入れています。

募集人数：10 名程度

対象年齢：6～11 歳（小学 5 年生まで）

場 所：箕面市小野原西 6 丁目 15-31

見 学：随時（ご相談の上で日程を決めます）

体験入学：見学の後、学校の平常の授業を
5 日間体験していただきます。

入学面接：ご相談の上で日程を決めます。

問合せ先：072-735-7676

※見学、入学ご希望の方はご連絡ください。



アクセス：阪急北千里駅から徒歩 15 分。

教育リアル熟議 in 箕面

～これからの教育と社会（仮題）～

教員、保護者、地域住民、行政者など、いろいろな立場の人たちが一同に集って、これからの望ましい教育について熟議します。

日時：3 月 5 日（土）14:00～16:30

会場：箕面こどもの森学園

参加費：無料

定員：50 名

主催：多様な教育を推進するためのネットワーク
※参加希望の方は、下記までお申し込み下さい。

申込：TEL&FAX 072-735-7676



関西よつ葉連絡会

お届けするのは、作る人の想いと安心な食品です

（株）産地直送センター

〒562-0034 大阪府箕面市西宿 2-15-6
フリーダイヤル 0120-30-4280
産直ショップ小野原店 072-729-7800



子どもたちに豊かな空間を — 建築設計

株式会社 高砂建築事務所

大阪府茨木市中穂積 2-6-22
TEL 072-623-0136
http://www.takasago.co.jp
info@takasago.co.jp